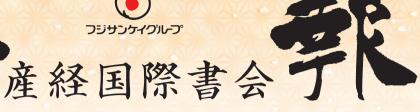
◇令和3年/2021年9月号 第100号◇







INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION SANKEI





「第38回産経国際書展」高円宮賞を受ける松井玲月副理事長(7月29日、大手町サンケイプラザ) 入口からメイン展示室を望む



産経新聞社 事業本部長 伊藤富博

感染対策のなかでの 展覧会、贈賞式

東京都美術館で開催しました第38回産経国際書展を多くの皆様のご協力のもと、無事に終えることが出来ました。

昨年とは違って、感染対策を取りながら、いかに書展を開催し、書道界を盛り上げていくのかという、難しい対応が求められる中、執行部の先生方と進めて参りました。

出品点数も昨年を上回る5280点となり、一 昨年には及びませんが、復調の兆しは見えつ つあります。また、併催のジュニア書道コンク ールは悲願の1万点を超えました。

高円宮賞、内閣総理大臣賞などの4賞も2年ぶりに選考し、贈賞式には高円宮妃久子殿下にご臨席いただき、受賞者をお祝いいたしました。

また、妃殿下と受賞者によるご懇談の場では、直接、創作意図など専門的な事もご質問頂くなど和やかな場となりました。

このあとも地方展が11月下旬まで続きます。いずれもコロナ対策を取ったうえで開催し、贈賞式も行う予定です。受賞者の皆様とお会い出来るのを楽しみに、喜びを分かち合いたいと思います。

新型コロナウイルスは依然として収束が見通せません。また、豪雨被害も日本各地で頻発するなど不透明な状況が続いています。

そういった中、皆様方にはくれぐれも気を付けていただき、更なるご活躍を心よりお祈りいたします。



度経国際書会 理事長 風岡五城

コロナ禍の中、 無事に展覧会開催

第五波のコロナウイルス感染が続く中での 開幕となりましたが、無事に開催出来ました ことは、関係者各位のご支援ご尽力のお蔭と、 先ずもって厚くお礼申し上げる次第です。

感染拡大の二年目に入って二年連続で総会が開けない状況ながら、本展だけは何としても立派に開催したいという思いは書会としても新聞社としても変わりありませんでした。そのためには昨年出来なかった通常通りの審査並びに贈賞式をしっかりと行うことが大事なことでした。

審査会は従来の二倍以上床面積のある産業 貿易センターに移して十分な感染対策を講じ ました。感染が心配される時ですから幾人か の審査員の欠席はありましたが、支障の出る ほどではなく高円宮賞以下特別賞の全てにわ たって公正な審査ができたと自負しています。

贈賞式は関係者の人数を絞り込み、さらに 二部制にすることで粛々と厳かに実施されま した。高円宮妃殿下におかれましてはこうし た対策をご理解いただきご臨席の栄を賜るこ とが出来ましたこと、誠に有難く感激の極み です。

次回はさらに素晴らしい展覧会となりますよう、また二年後の40回の記念展を盛大に迎えられますよう、会員の皆様のご理解ご支援を伏してお願い申し上げます。

産経国際書会 会報100号記念

サンケイ国際書会

Sankei International SHO Association

クリーンな姿勢で前進を!!

サンケイ国際書会会長 北 川 貞二郎

「サンケイ国際書会 L は、正 1. い書会の存在を願われる皆様の, サンケイ国際書属に対する勢音と 絶大なご協力が結集し、その推進 力として新たに発足いたしました。 が、クリーンでさわやかな審査結 サンケイ展は今春、第1回展を 施上げしたばかり、いわば一人歩 きを始めたばかりの若さあふれる 展覧会です。それだけに既存の大 潜し敬意を表する次第です。 型展と違って、ユニークでクリー ンなものでなければなりません。 既存の大型書展はややもすると ポス的作家の縦割り金権支配によ る審査結果例などが多い、という ことを耳にします。若いサンケイ 国際書屋はこのようなポス的作家 の存在を排除し, 審査も公正に行 わなければ、新たに旅上げした意 味がありません。

その点、サンケイの旗のもとに ご参集下さった書作家各位は、そ

の章を十分理解されたうえで、熱 意と多大なご協力を寄せられ、1 回展を成功に導いて下さいました。 特に審査をご担当下さった先生方 果を示されたおかげで、「サンケ イ展公正なり」の評価が高まりま したことは、主催者として深く感

それぞれご社中を抱えられてい る以上、私情を交じえず責務を理 想的に遂行することは至難の築か も知れません。しかし、とかく若 い芽は鉛判の的となり、うかうか すると摘みとられてしまいます。

全会員が1回展で示された熱意 と、クリーンでさわやかな姿勢を 保って下さるなら、国際的視野に 立った新人の登竜門としての価値 も倍加し、日本一はおろか、世界 一の書具に成長していくことは間

違いないと確信いたします。

サンケイ新聞社は「サンケイ国 際書会」の経済力を一日も早く確 固たるものとし、基盤のしっかり 1.た法人組織に育てあげたいと来 えております。 そのためにもサン ケイ国際書展をより理想的に、よ

昭和59年/1984年 12月15日(土) 第 1 号

1

り大きく前進させていかなければ なりません。

会員の皆様のより一層のご理解 ご協力をお願い申し上げます。 (サンケイ新聞計車務取締役事業局 長、サンケイスポーツ新聞針針長)

サンケイ国際書展に寄せて 在日韓国大 姜

「書は人を表わす」といいます。これを、くにとくにとのかかわ り合いでいえば、「書は国を表わす」といえましょう。

お互いに、相手の国柄を理解することは、国際親善の深化につな がります。と、想いを致しながら、第二回サンケイ国際書展の開催 をこころからおよろこび致します。

書は、もともと東洋三国のお家芸なのでしょうが、当今は世界各 国の方々の関心を集めつつあるようです。書道なり書芸の"道"と "芸"は普遍的なのでしょう。それ故に、書の国際展も成り立ち、 また将来の発展を期約することができるのでありましょう。

書の国際展は、私の聞き及ぶ限り日本国内でも二、三はあるよう です。それぞれの国際書展の"個性"が競い合ってはじめて書を通 じての国際交流の調和は活き活きと保たれるものと信じます。"サ ンケイ的、あまりにサンケイ的"な国際書展へのご発展を強く期待 致します。それが、第十回、第百回のサンケイ国際書展へとつなが っていくよすがと信じるからであります。

産経国際書会の会報は今号で100号という節目を迎えることとなりました。それを記念して、 5ページにわたって、100号までの歩みを振り返ります。

上記に掲載したのが、記念すべき第1号の表紙です。昭和59年(1984年)9月にサンケイ国際書会 (※当時の産経はカタカナ表記)が設立、12月15日に最初の会報が発行されました。 サイズはB5横型で全12ページ。

その内容といえば設立メンバーの熱い意気込みの文章

「サンケイ国際書会の発足に想う」 + 鳥霊石(サンケイ国際書会常任理事) 「サンケイ国際書展に夢を託して」

山田松鶴(サンケイ国際書会常任理事) 小川瓦木(サンケイ国際書会常任理事)

「8年間 懐に暖めたサンケイ展」

菱山 甫 (サンケイ国際書会専務理事) が、

また、第一回展を振り返っては、

「明日の書に向かって」

「受賞のよろこび」

多田游硯

「受賞のよろこび」

生田博子

「『未完な荒削り』の書に努力を期待」 「書にあらわれた『自己の生の証』」 林 錦洞(第1回サンケイ国際書展伝統書部門審査主任) 國井誠海 (第1回サンケイ国際書展現代書部門審査主任)

が掲載されています。

なお、この記念すべき第1号の会報を産経国際書会のHPにて公開いたします。 ぜひ、ご覧ください。





高頭 子翠 (産経国際書会副理事長) ※平成26年 (2014年) 79号から担当 ※平成18年 (2006年) 54号から担当



小川 艸岑 (産経国際書会常務理事)

令和3年8月20日

産経新聞社 14階会議室にて

司 会:山口 邦泰 (産経国際書会事務局次長)



影山 瑤琴 (産経国際書会理事)



早坂 喜伊 (産経国際書会理事) ※平成26年(2014年)79号から担当 ※平成28年(2016年)84号から担当 ※平成28年(2016年)84号から担当



渡邉麻衣子 (産経国際書会評議員)

司 会:今日は会報編集委員の先生方にお集まりいただき(影川先生、渡邉先生はリモート参加) これまでの会報をご覧いただきながら、色々なお話をお聞かせいただければと思います。 まず、記念すべき第1号を始め、過去の会報をご覧いただいた感想をお聞かせください。

小 川:この第1号からは、産経国際書会を立ち 上げた先生方の意気込み、使命感に満ち た原動力が感じられ、皆が毎日や読売に はない、書壇の浄化、書の追求、新人の 育成、国際交流など盛りだくさんの内容 に期待、胸を膨らませておられたのが本 当に感じ取れます。第1号会報は当時の 常任理事の先生方、小川瓦木、國井誠海 先生が苦労の末発行され、今日までの道 のりを思うと感慨深いものがあります。



平成元年(1989年)第5号 この号よりA4横型にサイズ変更、産経が漢字表記に

高 頭: ご立派な先生方が皆、驚くほど若々しく、 一生懸命になって、産経国際書会の礎を 作っていただいたことを伺うことができ、 ただ感謝するばかりです。

影 山:最初から書家と新聞社が「車の両輪」というスタイルが形成されていたことが感じ取れます。読み物としても、素晴らしい内容で保存版にしたいですね。

早 坂:初期の会報を見ると、本当に偉大な各先生方の意気込みが感じられます。とりわけ國井誠海先生の毎日、読売を経て、産経国際書会を立ち上げる際の"clean"な理想を強く感じることができます。

渡 **邉**:時代時代の先生方の熱い思いが伝わってきて、学ぶ事が多い。10年間イタリアに住んでいた際も、日本から会報は送ってもらい、日本語の活字に飢えていたこともあり、毎回楽しみに読んでいました。

司 会:会報もこれまで、幾度かスタイルが変更 になっていますが、その点についてお聞 かせください。

高 頭: ちょうど現在の会報編集委員5名になって、すぐの第85号から会報の大きさを A4二つ折り(A5)から、ひと回り大きい B4二つ折り(B5)に変更しました。この 大きさにできたのは画期的なことで現在 もこのスタイルを続けています。

小 川:初期の会報より、二つ折りになって、読み易くなりました。またサイズも大きくなり、文字も、レイアウトもよくなり、多くの方に読んでもらい易くなったのではと思います。

影 山:昔よりは、写真が増えて、記事としても 見易くなったと思います。



平成2年 (1990年) 第6号 この号より会報が年3回発行に



平成4年 (1992年) 第13号 高円宮殿下はじめてご鑑賞、贈賞式ご臨席



平成15年 (2003年) 第45号 この号よりA4二つ折りにサイズ変更、 表裏のみカラーに

司 会: これまで会報編集委員を担当されていて、印象に 残った出来事などあればお聞かせください。

小 川: 私が担当になった頃は、原稿や写真も手間がかかり レイアウトを決めるのにも、たいへんでしたが、 今はデジタル化して楽になりました。とりわけ 25周年の際に発行した「産経国際書会25年の歩み」 は会報編集委員になって、一番大きな仕事でした ので印象に残っています。また、当時は委員の中 心であった原田圭泉先生がお酒がお強かったので、 会報会議の終わったあとの反省会は色々な先生方 からざっくばらんなお話が聞けて楽しかった思い 出があります。

早 坂:羨ましいですね。なかなか他の先生方と親しくお 話しする機会もないですし。

高 頭:早くコロナが収束して和気あいあい、お話しが出来ると良いですね。

司 会:最後にこれからの会報についての考えをお聞かせ ください。

渡 **邉**:各社中がどのような活動している(指導方法、教室の様子)のかを、会報の中で伝え、これから参加したい方にも配り、産経展の良さを広めるのに活用していきたい。また、書人口を増やすべく内容も考えていきたい。会報とfacebookなども連動させていきたい。

早 坂: 私も、もっと各社中の活動を知っていただけるものを作っていきたい。自分たちの活動の参考にもなるので。また、発足当時の理念は守りつつ、時代の流れに沿ったものを作っていきたい。



平成15年 (2003年) 第46号 高円宮妃殿下はじめてご鑑賞、贈賞式ご臨席



平成24年 (2012年) 第73号 この号より表紙レイアウトが変更

影 山:いつも会報会議で他の先生方の話が聞けるのが楽しみですが、これからは自分から多くのものを発信できるよう頑張りたい。また、これまでの会報では若い世代の声がほとんど聞くことができないので、今後の課題にしていきたい。

小 川: 私も、エッセーやコラムなどで、上の先生方のお考えなどを知ることはできますが、なかなか若い方の声を聞くことができない、若い世代の方が何を考えているのか、自由な意見を言える場を設けるのは大事だし、会報がその役割をも担っていきたい。

高 頭:確かに、自由な意見を言えるのは、とっても大事なことですが、よほど積極的な方でないと、言ってくる人は出てこないのが現実。とにかく会員のための会報なので、皆が言いたいこと、書きたいことを伝えられる場になるよう、努力して参ります。

司 会:どうも、今日は皆さんありがとうございました。 今後もより良い会報を目指して、一緒にがんばり ましょう。よろしくお願いします。





懐かしい「会報途上時代」

原田 圭泉 (産経国際書会常任顧問)

会報100号おめでとうございます。

振り返ってみますと私が会報にたずさわってからずい分 長かったような、意外に短かったような色々考え深い思い があります。最初は会報を作っているという、感覚が余り なく文章などの「校正」だけやっていた様な感じでした。

そういう時期をプラスするとずい分長い間「会報」にたずさわりました。何回か参加しているうちに会報のサイズに疑問が出たり、何か内容や方向性などに欲が出てきたり、会報会議後の雑談のような反省会に色々な意見が出たりして楽しくなりました。

性格的に中途半端な事がきらいでだんだんに周りをもう少し知りたいと思うようになり、若かった事もありで、ジュニア書道展の立ちあげにたずさわったり、地方展の実情等も行って知りたくなり、また海外展に参加したり記念展に参画したり、なんでも見聞したり、色々な先生方と交流したりと段々書会に行く事も多くなり、皆で定期券を買わなきゃと談笑したのも憶えております。

結構暴走気味の私に皆さん辟易したのではと今頃反省してますが、「会報途上時代」のお仲間の西村百翠先生、遠藤有翠先生、故岩間清泉先生など今はそれぞれ書会を離れて寂しいです。故荒木香心先生は帰りも同じ方向で今度はこうしよう、ああしようと話したものでした。色々とりとめもなく思い出すのですが、今は懐かしい時代の話です。

最近の会報は100号をむかえ、しっかり構図が決り安心 して楽しく拝見しております。



平成25年 (2013年) 第76号 30周年記念特別号で全ページオールカラー



平成28年 (2016年) 第85号 この号よりB4二つ折りにサイズ変更、 現在の形に

第

ありがとうございました

本展実行委員長 副理事長 岩浅写心



現在、新型コロナは第五波といわれて猖獗を極めていて憂慮に堪えない処であるが、第38回産経国際書展はその合間を縫って審査から展示まで、いずれも東京都の施設であったが貸してもらえて、それぞれの行事が行えたことは幸運で、まあまあ成功であったと思っている。

審査会は役員の欠席者が多かった事は時節柄仕方のないことと思っているが、それでもそのような中、押して出席して下さった審査員、各部の係の皆様、そして欠席するわけにはいかなかった事務局スタッフの皆様

には、感染予防から細々とした心配りまで、誠に頭の下がる思いである。

私は名前だけで役立たずの実行委員長でしたが、関係者の皆様には心から御礼申し上げます。良い経験をしました。40周年はすぐやってきます。質量ともに充実した記念展になるよう今から皆で頑張りましょう。ありがとうございました。



色紙展「命 | と 「醫 |



3年間の「『書」でつなぐ世界と日本|



特別賞作品を鑑賞

第 38 回 産経国際書展

第38回産経国際書展は、コロナ禍のなか、7月27日から8月3日まで、予定通り東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で開かれた。総出品数は一昨年には届かないものの昨年よりは多い5,280点であった。審査会は5月25日から27日まで、東京都港区の東京都立産業貿易センター浜松町館で行われ、高円宮賞、内閣総理大臣賞はじめ特別賞、入賞、入選などが総勢47人の審査員により選ばれた。

今年の特別選考会は、岡部昌幸(群馬県立近代美術館館長)、富田淳(東京国立博物館副館長)、吉野毅(彫刻家、日本芸術院会員)の3氏を加えた11人で行われた。

特別賞、特選、秀作、入選作品をはじめ産経 国際書会審査会員、無鑑査会員、会友の作品 2,369点が東京都台東区上野公園内の東京都 美術館で展示された。

そして、様々な特集展示も行った。一つ目は特別色紙展。高円宮妃殿下から「命」と「醫」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催。色とりどりの色紙47点が飾られた。二つ目は3年前から展開している「『書』でつなぐ世界と日本」企画の集大成として第35回展から昨年まで32か国と交流して、揮毫していただいた全ての作品を「2020東京オリンピック」を記念して展示した。三つ目は、韓国書壇をリードする鄭道準(ジョンドジュン)国際書芸家協会会長ほか代表書家8人の作品を招待展示。四つ目はおなじみ、タレントの中山秀征さん、松村雄基さん、藤田三保子さん、岡部まりさんの作品を特別出品した。

(事務局)

【来年度】第39回展

会期 令和 4 年 8 月14日(日)から 8 月21日(日) ○すべて通期展示となり、展示替えはありません

会場 東京都美術館

ロビー階と1階の第1~第4展示室と2階第1、第2室(合計10室)

贈賞式 令和4年8月18日(木) 明治記念館

※2022産経ジュニア書道コンクールも同会期 8 /16~ 8 /21、東京都美術館 2 階第 3、4 室(計 2 室) での実施を予定しています。



韓国書壇幹部の作品群



今年のタレント作家作品(左から岡部まり、中山秀征、松村雄基、藤田三保子の各氏)



飾る、観る 感じて味わう 有観客の醍醐味! 陳列部顧問 副理事長 勝田晃拓

時は緊急事態宣言下、無観客の東京 五輪真っ只中。僅か8日間、命の証を必 死に刻む蝉時雨が静かに開幕した会場

を連日熱く包んだ。展示は3,000余の個々の良さを最大限に生かす秒刻みの配置。演出家として求められる要素は多く、近隣部員中心に感染予防を徹底して粛々と進められた。見ればコロナ禍を吹き飛ばす筆との真摯な書気作がジワリ静寂な空間に響き、来場

者の手応えも確かだ。そこにはまさに五輪アスリートの如く、苦労栄冠の笑みや感涙と相通じるものがある。本展の魅力をより多くの方々と共有出来れば、裏方の汗も心地よい達成感に昇華されるのかも知れない。来年からは全作品一括通期展示だと聞く。記念40回展も見据え、更に力を結集し、より質の高い展示を目指したい。そう!…今はもう秋誰もいない会場♪…にはしたくないから。



小規模ながらも華やかな式典

東京部会長 副理事長 武富明子

令和3年夏、東京はコロナの緊急事態宣言下でしたが、産経国際書展が開幕。開催中に感染者が全国的に増加拡

大しておりましたのにも拘わらず会場には沢山の入 場者がありました。

本年も、いくつかのイベントを中止にしましたが、 贈賞式は、密を避けるために、第1部、第2部の形式 で実施。第2部には、高円宮妃久子殿下のご臨席を 賜り、小規模ながらも華やかな感動の式典が執り行 われました。 今年もマスク着用・消毒液や仕切りボードの設置などの感染症予防対策に配慮しました。「東京部会」は今回久しぶりに、委員と会員に、あくまでも無理はせぬようにとの言葉を添えて受付当番を呼びかけました。お手伝い下さった方々ありがとうございました。そして、連日の猛暑の中、また、不安な情勢の中ご来場くださいました皆々様には心より厚く御礼申し上げます。

会員の皆様には、引き続きどうぞお身体をご大切 にお過ごし下さいますように祈念いたします。



第38回展の審査を終えて

緊急事態宣言発出中という厳しい状況の中、「第38回展審査会」は5月24日(月)から27日(木)までの4日間にわた

り、「東京都立産業貿易センター浜松町館」において 開催されました。審査員の先生方の中には止むを得 ず欠席された方もおられましたが、漢字、かな、現代 書、臨書、篆刻・刻字、U23の各部で総勢32名の先生 方のご出席をいただきました。

例年通り産経国際書展の基本理念である4Cに基づき、公正・公明な審査をお願いし、前々回(第36回展)よりも時間を短縮したハードスケジュールでしたが、熱気あふれる審査会となり、無事終了いたしました。27日の最終審査の特別選考会は、外部審査員の先生方にもご出席を頂き、11名の選考委員により厳正に審査され、各賞が決定されました。

審査員の先生方、大変お疲れ様でした。そして、審

審查本部長 副理事長 村田白葉

査進行等にご協力を頂きまして誠にありがとうございました。また、審査部は欠席者が続出し、責任者不在の部もあり、審査会が予定通り進行できるか心配されましたが、出席して頂いた少人数の部員の皆様のご協力により何とか業務を果たすことができました。そして進行、その他の面において全面的にご協力



浜松町館での審査風景



コロナ禍の中、本展開催までに図録を図録部長副理事長今田篤洞

新型コロナウイルス感染拡大の中で2年目を迎えた第38回展が無事に開催されたことは、産経事務局と理事長の

尽力のおかげと感謝したい。贈賞式の人数制限やギャラリートークなどのイベントが開催中止された中で、図録は会期に間に合うよう制作完了できてほっ

としている。例年のことだが酷暑の7月に作業すること3回、図録部員10名皆勤の頑張りに感謝したい。 出品票と作品写真、事務局の基礎資料をもとにした 作業で、今年も出品票の記載事項の不備との闘いと なった。また、図録のタイトルは会員の公募で選ばれ た題字が使われたことに気づかれたことと思う。

第《38》回 產経国際書展 贈賞式



贈賞式で挨拶する飯塚浩彦産経新聞社社長



高円宮妃殿下のお言葉



ペルー大使館友好賞を母、岡野蒼生理事の代理で受賞する岡野雅行さん(元サッカー日本代表)



高円宮妃殿下と一緒に(産経国際書会会長賞の田嶋華翠さん=右から二人目=とご家族)

東京に4回目の緊急事態宣言が出され、2020東京オリンピックが開催される中、7月29日(木)、東京・大手町サンケイプラザに高円宮妃殿下をお迎えして「第38回産経国際書展」贈賞式を開催しました。開催に当たっては、感染症対策に十分に気を配り、公募、会友を対象とした1部、無鑑査会員、審査会員を対象とした2部に分け、受賞者を分散しての実施とし

ました。例年の祝賀会は中止とし、代わりに高 円宮賞や内閣総理大臣賞受賞者など上位受賞 者と妃殿下の懇談会を行い、おのおのが作品 の見どころや作品制作の苦労話をされ、楽し く時を過ごされました。

また、今年から審査会員役員を対象に「ペルー大使館友好賞」が贈られることとなり、理事の岡野蒼生さんが受賞しました。

or allero

高円宮賞

松井玲月 副理事長

sionsie

書道人生への金メダル



「三省」



この度の「高円宮賞」に決まりましたとの連絡をいただいた時は、ただただ驚きで一杯でした。それからは、コロナ禍で、贈賞式は行われるのかしらと、落ち着かない日が続きましたが、中止の連絡もなく、忘れられない形での贈賞式を執り行っていただきました。

妃殿下から、賞状とトロフィーを拝受し、やっと実感として、うれしさがこみあげて、御礼を申し上げた時は、万感胸に迫り、言葉につまってしまいました。

顧りみますと、第22回展の時に、創設されたこの賞の第1回目を、母、佐々木月花が受賞し、それから16年目に、私がいただける日が来るとはと、感慨深く、ちょうどオリンピックが始まった時で、私にとっての書道人生への金メダルと喜びも、ひとしおでした。

今回の受賞作「三省」は論語から引用、一に「人に忠」、二に「友に信」、三に「学を習」です。そして何より画数の少ない文字であるのが一番の理由でした。この言葉の意味を単純な画数にどれだけ表現できるか。書線が問われるとの思いで製作しました。巾広い分野での臨書を大切に、常日頃の姿勢が大事であり、その積み重ねから、自分の書が出来上がって行く事を実感しているこの頃です。

この賞に恥じないよう、尚一層の研鑽と国際交流に努めて参ります。終りに当りまして、ご来臨下さいました妃殿下に、また大変な努力で、式を開催して下さった書会の関係各位に心より感謝申し上げます。

200000

内閣総理大臣賞

金丸鬼山 副理事長

sionsie

継続する大切さ



第38回産経国際書展に於いて栄誉ある内閣総理大臣賞を頂き誠にありがとうございました。恩師、田中鳳柳先生の基で初回展より出展させて戴きました。顧みれば第23回展で師が此の賞を受賞、それから15年の歳月が経ちました。一つの節目を迎えたにすぎませんが、この賞の重さをひしひしと感じています。書道は一生をかけて極められるか?の習い事だと思いますが、師の教えは「常に魏晋以前の書「王羲之、王献之」を心の師とする事だと言う。まねようとしてまねの出来ない奥深さが有る」。贈賞式でも少し話を致しましたが、継続は力とよく言われる言葉です。書道を心掛ける者として、手習いの大切さ「古典の臨書」、目習いの大切さ「各種書展の見学」等、学書を継続してこそ力となります。

今回展は2020東京オリンピックと同時開催と言う、またとない機会でした。しかし感染拡大に歯止めの利かないコロナ禍の影響でオリンピック中止も取りざたされる状況下でした。それでも其れに携わる多くの関係者の努力により、アスリートの祭典は開幕、各国の選手は互いに競い合い、次開催国パリに向け幸せと新たなる希望を胸に閉幕しました。同時期開催の産経国際書展もコロナ禍に屈すること無く無事に開催、対策は無論のこと関係各位の御尽力による、鑑別審査、ジュニア展を含む会員並びに入選入賞作品の展示、そして贈賞式の設営、等々心から感謝し御礼申し上げます。最後に産経国際書会の益々のご発展と会員各位の健康を祈念し、文字の持つ力を信じて日本の筆文化を伝えていきたいと願う。



「清虚静泰

中国大使館文化部賞

遠藤乾翠 常務理事

serone.

書の修業は雲水の如し



この度は名誉ある中国大使館文化部賞を戴きましたこと、身にあまる光栄に存じます。偏に先輩諸先生方のご指導のお蔭でございます。また、産経国際書展会場ですばらしい作品に触れるたび新たに啓発されること多であり、あわせて感謝申し上げます。

遡ること、平成23年3月11日、銀座鳩居堂画廊に於いて小作品展開催中のことでございました。東日本大震災の発災です。身のすくむ思いを致しました。実は同年の8月、軽井沢にて個展開催しておりました。「隷書の現代的表現への挑戦」全10回シリーズです。こんな状況では無理と思いました。ところが弟子の一人が「先生やりましょう」と。それから雲水の如く隷書修行の旅が始まったのです。最後になりましたが、理事長・風岡五城先生の作品講評の中、「荷は草書風に作って変化を楽しみ・・・」といわれた、この一言が本当に嬉しくこの十年の苦労が雲散霧消となりました。有難いお言葉本当にありがとうございました。



「游魚動緑荷」

韓国文化院長賞 世本田江山 常務理事

小さな紙面に宇宙を表現



コロナ禍の中、少しでも明るい気持ちを持ちたいと色のついた作品にいどみま した。

書は、墨表現が当然のように思われがちだが、彩書の先駆として広島の厳島神社に金、銀泥等で書かれた平家納経があります。前衛とよばれた現代書も世に出て七十余年、類型化が甚だしく独創・独自のものをさぐり類型化への抵抗に日々苦闘しています。現実的な感覚は範囲が広い。『小さな紙面に宇宙を表現する』ことが私の欲求理念です。

本作品は、筆の長鋒を何本か持ち、側筆で左右から中に、広い空間を抱きながら大きく筆を動か

し、雄大感を狙いました。重苦しい空気をかもす社会やと じこめられてうつむく、やるかたなき気持ち。これらを少 しでも明るくできたらと願って書いたのです。

現代書は一枚が勝負、人の真似も自分の真似もしない。次の一枚はさらに斬新なものと念じています。そして、いま多くの人に支えられている幸せを改めて深く感じています。(7月中旬記)



(世木田江山先生は闘病中でしたが8月11日ご逝去されました。)

「仰ぐ」

第

(38)

D回 産経国際書展 受賞者 喜びの声 (敬称略)

ペルー大使館友好賞 岡野蒼生



この度、思いがけず、ペルー大使 館友好賞を賜り、心より御礼申し上 げます。書歴は長いのですが、不勉 強の日々を反省している日々でご ざいます。一昨年の七月にくも膜下

出血で倒れ、去年の五月まで入院していました。 最近少しずつ回復して来つつあります。本当に うれしくありがたいと感謝しております。

産経国際書会会長賞 杉原和香



身に余る賞を頂き、驚きと共に身の引き締まる思いで一杯です。風岡 五城先生を初め、書を通じて出逢え た全ての方々のお蔭と、感謝致して おります。私にとって、書は人生の

糧として大切な存在です。受賞を励みに、一層精 進して参ります。

産経国際書会会長賞 中井悦子



アスリートの一瞬にかける思いを表現できたらと、あれこれ迷いながら書きあげた「一瞬」です。思いもよらぬ賞を賜わり、身の顫える思いです。慎んで深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

国際大賞 舩木閑静



嬉しさよりも驚きが先の受賞の 知らせでした。五月女紫映先生の的 確な指導のお蔭で受賞することが 出来ました。ありがとうございま す。これからも一歩、二歩と技術の

向上を目指し、努力していきます。

外務大臣賞 野口聖扇



外務大臣賞を頂き身の引き締まる思いでおります。どんな時でも愛情あるご指導をして下さる及川扇翠先生をはじめ諸先生方、学友の皆様に心より感謝致します。初心を忘

れずこれからも精進して行きたいと思います。

伊達政宗賞 中西儷



この度は身に余る賞をいただき 感激と感謝の気持ちで一杯です。ご 指導くださった鈴木暁昇先生、本当 に有難うございました。これからも 書の面白さを研究し、より一層精進 して参ります。

産経国際書会会長賞 田嶋華翠



会長賞をいただき大変光栄に存じます。これも偏に、師匠村越龍川 先生のご指導のお蔭と心より感謝 しております。初心を忘れずに、こ れからも生き生きとした書を目指 して努力して参ります。

産経国際書会理事長賞 宗像翠龍



この度、「産経国際書会理事長賞」 という栄誉ある賞を賜りました事 は、この上ない喜びであり、身に余 る光栄でございます。深く御礼申し 上げます。この受賞の感激を胸に刻

み、更なる精進、努力する想いを新たにしており ます。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

文部科学大臣賞 塩澤鈴華



身に余る文部科学大臣賞を頂き 有難く光栄に存じます。村越龍川会 長、村田白葉先生の両師、審査に当 たられた先生方に心より感謝申し 上げます。牛歩の如くコツコツ続け

て参り継続の大切さを感じております。今後も 精進して参ります。

産経大賞 片山寿美子



この度、思いがけない受賞に驚きと共に身の引き締まる思いで一杯です。「鐘の鳴る丘」で戦争孤児たちが強く生きていく姿に思いを寄せて書きました。この賞は諸先生方の

励ましのおかげです。重ねて御礼申し上げます。 今後、さらに精進して参ります。

第 産経国際書展受賞者(敬称略) 川

円 高 宜 賞 現代書部門 松 # 珨 月 (奈良県)

内閣総理大臣曾

鬼 漢字部門 余 丸. 山 (埼玉県)

中国大使館 文化部賞

乾器 (東京都) 漢字部門 遠藤

產経国際書会 会長賞

杉原 和香 (愛知県) 漢字部門 田嶋 華翌(静岡県)

かな部門

中井 悦子(大阪府) 現代書部門

韓国文化 院長賞

世木田江山(広島県) 現代書部門

国際大賞

產経国際書会 **賀县連**町

漢字部門 翌龍(東京都) 宗像

現代書部門 舩木 **閑清**(神奈川県)

伊達政宗賞

漢字部門 中西 (福島県) ペルー大使館 友好賞

現代書部門 岡野 蒼生 (東京都)

文部科学大臣賞

かな部門 塩澤 鈴華

外務大臣賞

野口 聖扇 漢字部門

産経大賞

片山 寿美子 現代書部門

産経進大賞

漢字部門 神田 景水 櫻本 静月 漢字部門 森井 爽生 漢字部門 坪井 駿泉 かな部門 岩佐 登花 現代書部門 内田 子鴻 現代書部門 李 若娜 臨書部門

無鑑者会員特別獎励賞

岩井 玲翠 漢字部門 小渕 翌竹 漢字部門 鈴木 知夏 漢字部門 中本 江翠 漢字部門 漢字部門 原田 仰月 福島 白苑 漢字部門 伊藤 君代 かな部門 現代書部門 石原 圭芳 井上 空咲 現代書部門 大野 明子 現代書部門 倉岡 さおり 現代書部門 現代書部門 中畦 峰月 中島 彩紅 現代書部門 佐藤 白楊 臨書部門

太宰府天満宮賞

漢字部門 丸山 京華

太田道灌やまぶき賞

小林 紫泉 漢字部門 伏見 香蘭 漢字部門 市原 蘇水 現代書部門

無鑑查会員獎励賞

福田 幸華 漢字部門 渡辺 美代子 かな部門 現代書部門 可知 悦子 現代書部門 丸井 茜笙 大森 翠山 臨書部門 苅米 紀子 臨書部門 新田 裕畦 臨書部門

会友特別賞

〈漢字部門〉 今村 華綏 坂本 柏堂 永野 彩泉 本山 鈴翠 山崎 佳秀

〈かな部門〉 松尾 健太

〈現代書部門〉 伊藤 汀花 川口 久美子 河村 雪華 福田 惠琳 渡邉 一甘

〈臨書部門〉 宮本 香祥

会友賞

〈漢字部門〉 伊藤 白蓮 伊藤 柳絮 片山 彩幽 五月女 久枝 末永 夕苑 田丸 翠玲

土田 真山 常松 昇儷 西川 玲華 袴田 春汀 波多野 美麗 濱野 蒼枝 弘重 輝扇 増田 一翠 万田 妹華 栁田 朋真 山田 清風 横山 恵華

吉田 早織 吉田 悟

〈かな部門〉 江川 松静 菊島 克月 河野 正子 榊田 育代 島田 昌広 神野 冨子

鈴木 記久子 鈴木 紫苑 武野 渓園 仁科 安博 野呂 トヨ子 前田 蕙花

牧野 友里

〈現代書部門〉 有賀 瑚風 大澤 華陽 加藤 芳丘 金子 静堂 北澤 花舟 北村 志保

腰原 佳恵 酒井 雅代 佐藤 晁熈 佐伯 百合子 鈴木 裕子 竹田 倫吏 達家 祥琴 松江 みち子 望月 慶雲 山口 翠婉 柚木 笙遥 渡邉 洋子

〈臨書部門〉 鈴木 雪華 西 芳葉 山崎 佳秀

会友獎励賞

〈漢字部門〉 亀井 稜石 中村 城風 山野 ひろ江

〈かな部門〉 岡坂 彩逍 國吉 龍華

〈現代書部門〉 銭谷 佐智子

〈臨書部門〉 東浦 幸平 三井 里枝子

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈漢字部門〉 王 瑩

中国大使館文化部国際友好賞

〈漢字部門〉 陳秉奎

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉 武石 扇英 〈かな部門〉 松岡 幸子 〈現代書部門〉 鈴木 康子

国際賞

〈現代書部門〉 中村 玉蘭

U23 大賞

〈臨書部門〉 須永 聖七

愛知県知事賞

〈漢字部門〉 恒川 玲舟

產経新聞社賞

〈漢字部門〉 陳南奇 本田 蘭扇

〈かな部門〉 鬼頭 由美子 〈現代書部門〉 内田 陽子 松橋 艸路

〈臨書部門〉 利光 竹心

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉 松永 真実 〈現代書部門〉 小野 由里彩 〈臨書部門〉 渡辺 昌弥

U23 獎励賞

〈かな部門〉 小掠 友紀乃 〈現代書部門〉 山田 梨緒

2021産経ジュニア書道コンクールを振り返って

「2021産経ジュニア書道コンクール」はコロナ禍にも関わらず盛会裏に終了することができました。開催については賛否ありましたが、いかなる時においても書の力を発信し続けることが重要ではないかと考えています。産経ジュニア書道コンクールは目標として出品点数1万点を掲げ、書会事務局、教育部会はこれを達成するため精力的に活動をしてきました。昨年はコロナの影響で大幅な減となり、本年も収束していない状況下、更に少ない点数となり厳しい現実を突き付けられるのではないかと懸念。ところが1万440点の出品数となり、目標を達成することができました。これも会員の先生方、ジュニア展を支援して下さった多くの方々のおかげと熱く御礼を申し上げます。



実行委員会審査長 教育部担当副理事長 髙橋照弘

本年より作品の送付先は書会より委託された会社に変更しました。受付を委託された会社での処理は的確にされ、部員が作品整理を速やかに進めることができました。審査は選任された審査員により公正、慎重丁寧に行われました。総じて出品作品の質的向上がみられ、賞の決定に多くの時間を要しました。作品ケースは長年の使用により経年劣化・損傷が激しく多くが新調となりました。新調したケース内の作品は輝きを発していました。

贈賞式は会場内の密を避けるため、賞ごとに分けて午前11時より5回の実施となりました。昨年までは受付が混乱しましたが、本年は解消されました。しかし来年、この方式を踏襲するならば長時間での実施をどう処理してゆくか検討しなければなりません。

本年の1万点越えは到達地点ではなく通過点と考え、気持ちを引き締め、出品点数増加を図るべくしっかりと取り組んでいきたいと思います。



手をきれいにして



みんな上手だね!



作品の林を歩く

「2021産経ジュニア書道コンクール」は新型コロナウイルス感染症拡大のなか、昨年の倍以上 1万点を超える応募があり19人の審査員で審査を行いました。審査後の作品整理には当初予定して いた1日では終わらず2日間を費やして行いました。

展覧会は7月27日から8月3日まで、東京都美術館2階第4展示室で開催しました。30日は特別賞、ジュニア賞、いきいき賞、高校生奨励賞、国際部を除いたすべての作品を展示替え、応募作品全点を展示しました。また、今年は昨年実施できなかった「贈賞式」を「3密」を避ける、新型コロナ感染症対策を徹底するなどして、31日に美術館講堂で行いました。(事務局)

審査委員(五十音順)

【審查長】髙橋照弘

【実行委員長】眞田朱燕

【審查員】大谷芳雨、岡田崇花、恩田峰道、勝田晃拓、河口美櫻、小谷美奈子、小林紫雲、笹山紅樹、関根史山、髙野彩雲、谷蒼涯、殿村蒼園、長谷川明扇、伏見香蘭、星野葉柳、山口千夏、渡邉祥華



世界のお友達の作品「国際部」



あっ、作品見つけた



贈賞式が終わってパチリ

●特別賞(中学生以下)

文部科学大臣曾 ジュニア大賞 東京都知事賞 神奈川県知事賞 埼玉県知事賞 千葉県知事賞 産経新聞社賞 産経新聞社賞 産経新聞社賞 産経新聞社賞

産経新聞社賞 産経国際書会理事長賞 産経国際書会理事長賞 フジテレビジョン賞 フジテレビジョン賞 ニッポン放送賞 ニッポン放送賞

渡部彩乃(香川県·高松市立柴雲中学校) 鍛示百花 (兵庫県·小野市立旭丘中学校) 砂取穗乃加(東京都·白百合学園中学校) 菊池優羽 (神奈川県・横浜市立大綱中学校) 荒木夢佳 (埼玉県・鶴ヶ島市立西中学校) 五十嵐彩実 (千葉県・松戸市立旭町中学校) 一木瑛哉 (静岡県・浜松市立三方原小学校) 井上碧(三重県·四日市市立大矢知興譲小学校) 成田実紗(青森県·平川市立平賀東中学校) 荒川華織 (栃木県・作新学院中等部)

黒田美玖(福島県・いわき市立泉中学校) 梅田梨瑚 (岡山県・倉敷市立玉島小学校) 中村斗翔 (千葉県・鎌ケ谷市立道野辺小学校) 高林聖羅(静岡県·浜松市立八幡中学校) 依藤賀容子 (兵庫県・小野市立下東条小学校) 中島有彩(東京都・江東区立第三砂町小学校) 山田葉月(埼玉県・入間市立黒須中学校)



文部科学大臣賞の渡部彩乃さん



中学生以下A部門·特別賞



中学生以下B部門·特別賞

◎ジュニア賞(中学生以下)

A部門

浅野日向、浅見彩和、天野梨生、有友瑞希、大木愛、太田千尋、大林瑞、 岡田紗奈、岡田陽南、小野木叶愛、木本晟堯、國弘唯衣、栗林美羽、座古 ちひろ、佐藤夢華、猿澤里衣加、白石みのり、鈴木美徠、鈴木夢彩、関口 一華、髙柳菜都、田中琳子、玉田はな、土川友愛、土井咲良、中島里紗、 西塚あこ、野中美乃里、堀光姫、本間萌子、松平圭吾、松森悠真、圓山か りん、南沢希望、山田舞、吉田和真、若林勇貴、脇坂陽珠、渡邉優衣 B部門

池田はるか、一木翔哉、伊東琥子、稲垣遥奈、稲見彩乃、今井梨央奈、上野心乃彩、宇野心菜、加藤愛桜、加藤志 穗、木戸和奏、小松本麻友、坂井来光、佐々木玲奈、佐藤凪咲、下畠碧莉、中村依里愛、新田桜子、橋本埜亜、濱 田悠衣、原沙季、平野里音、藤原綾乃、前田かのこ、松浪悠、三原爽真、宮坂朋花、宮脇怜也、吉満優麻

【◉いきいき賞(中学生以下)

A部門

阿形虹恋、赤堀羽南、浅見優芽、阿部蒼士、阿藻由依奈、荒川瑠々、飯塚夏希、井口柚良、井上春樹、上田晴華、 大橋叶歩、金井菜優、菊池莉衣奈、黒澤匠、境芙有菜、庄島澪、曽白佳怡、早乙女凛和、田中康聖、寺崎麗海、寺 田ひな、中村美月、中村百花、野呂瞬翔、畑中美春、原彩花、平野真愛、蛭沼佑美、藤川隆士郎、藤原康佑、前川 結月、松下結香、宮下芽衣、柳澤千菜、山岡聡美、米川瑠羽、渡辺詩、渡邉志歩

井上芽依、梅原悠生、永島璃佳、大野詩織、佐藤海地、霜田孝太、鈴木那央、鈴木優真、髙津蒼永、田嶋佑眞、田 中伊織、田渕心都、坪田瑠奈、寺井琴春、永坂真由、中里実桜、中村真子、中山明花璃、林田梨央奈、比嘉あかり、 星結芽花、堀美咲、松尾美明、横田かな

●特別賞(高校生)

産経新聞社賞 荒井理紗子(神奈川県·佼成学園女子高等学校) 産経新聞社賞 大野碧音(千葉県・頌栄女子学院高等学校) 産経新聞社賞 川合つばさ(静岡県・静岡県立浜松商業高等学校) 産経新聞社賞 産経新聞社賞 産経国際書会理事長賞

中野碧衣(岩手県·岩手県立盛岡第三高等学校) 吉田彩生(長野県・長野市立長野高等学校) 大野晴山 (千葉県・千葉日本大学第一高等学校) 産経国際書会理事長賞 朝井晴夏 (兵庫県・兵庫県立小野高校学校) 周沛辰(台湾・新北高級工業職業學校)



高校生部門·特別賞

◎高校生奨励賞

A部門

国際友好賞

岩田梨楓、木内瑠那、鈴木藍子、須永聖七、高橋凜美、永瀨優月、中村百花、町美沙季、村田優衣、矢島来海 B部門

秋場美玲、阿部彩花、有田向日葵、岩渕珠苑、遠藤春奈、荻原璃世、掛川祐希、川口姫、北村優奈、輿石彩音、小 林千恵、佐藤愛佳、佐野小春、新村晴香、竜野愛子、田中碧、谷本夢果、豊田麗、中野花深、中村侑加、林広平、 春名凜、半田光璃、藤﨑茉

第 38

回 產経国際書展"新春展"募集要項

開催要項(概要)

【主 催】 産経新聞社 産経国際書会

【会 期】 令和4年1月26日(水)~2月7日(月) 2月1日(火)は休館日

【会 場】 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2 TEL03-6812-9900 FAX03-3405-2531

【入場料】500円 (障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

出品要項(概要) 〇搬入締切: 令和3年11月12日(金)

《新春展Ⅰ》

【寸 法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。 全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。 篆刻、刻字、巻子・折帖作品は上記サイ ズ外。

【特 典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)

【搬 入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料 を添えて指定表具店へ。

【出 品 料】①5万円=産経国際書会の役員(最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員) ②3万円=審査会員、無鑑査会員



昨年の新春展Ⅱ展示風景

《新春展Ⅱ》公募部門

【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む)

【寸 法】半切タテヨコ (135cm×35cm)、全紙 2 分の 1 (70cm×68cm)

> ※搬入は未表装で出品票に必要事項を ご記入の上、産経国際書会事務局まで。 団体の場合は一括出品をお願い致しま す。出品作品はすべて展示します、但 し、規定寸法と異なる場合には展示で きない場合がありますのでご注意くだ さい。

【出品料】2万円

【審 査】12月3日(金)

【 賞 】会友の部:会友奨励賞(賞状、副賞)、 公募の部:産経新聞社賞(賞状、副賞)、 奨励賞(賞状、副賞)

【特 典】①作品(半切タテのみ)を軸装にして 返却します。(表装料は出品料に含まれ ています)

②産経新聞社賞受賞者が令和4年8月に行われる第39回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。

【贈 賞 式】(予定)令和4年2月3日(木)

午後2時~午後3時 国立新美術館講堂

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係

問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

作品送付先 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台 7 -51-12 藤和額装㈱

T E L 045-833-5273

書展トピックス

中日文化交流 扇翠アート学院展

●会期 6月21日(月)~6月24日(木) ●会場 東京中国文化センター

コロナ禍の中、4日間の開催で160人の入場者があり、大変好評でした。初めての日中友好書道展、文化の違いなど感じながらも、とても友好的な雰囲気で開催できました。出品は子どもの作品10点、中国から20点、合計87点を展示しました。今年から書画一体の扇翠流を立ち上げ、中国の新聞でも取り上げていただくなど有意義な展覧会ができました。







group F 2021展Vol.5

諸留大空

●会期 7月2日(金)~7月4日(日) ●会場 京都万華鏡ミュージアムギャラリー

F会員の棲む地を一巡し終えた間に書道界も新しい運動が起こり活気づいて来ている。そんななか着実に歩んで来た会の5回展は地元京都や大阪から大勢の御来場があり盛会でした。前衛書をご理解頂く為の説明書も大活躍。フェイスブックでの予告、動画配信等広くPR出来ました。暑い中をお越し下さいました皆様にお礼申し上げます。

第50回墨林綜合書展・第50回学生墨林綜合書展

遠藤悠翠

●会期 8月5日(木)~8月10日(火) ●会場 東京都美術館

第50回墨林綜合書展はコロナ禍とは言え、質量共に大惨敗。陳列日の8月4日、東京都の感染者数は4,166人。その後のコロナの暴れぶりは言うに及ばず。予期せぬ事と言えば、2回目のワクチン接種のせいか、遠藤乾翠会長の体調変化により席上揮毫は中止せざるを得なくなった。踏んだり蹴ったりとはこういうことか。神妙にして来年を待つとしよう。多謝。





喜寿記念 玲月書作展

松井玲月

●会期 9月3日(金)~9月8日(水) ●会場 有楽町朝日ギャラリー

当初、3月に計画していた個展をコロナの為に9月に変更の後、何と高円宮賞を拝受する事になり、生涯でも二度とないタイミングでの、大輪の贈り物を添えていただきました。何にもまして、心配なコロナの状況下でしたが、関係各位の大変なご協力のもと、無事開催出来た事、又まげて御来場下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

アラカルト

コロナ禍のため2年続けて夏期研修会が中止

今年こそはと思い、企画した夏の研修会ですが、新型コロナ感染症がおさまらず、止む無く中止といたしました。中止を決めた7月中旬には、予定していた2日間とも約60人のほどの参加希望者がいましたが、残念です。また、中止の決断、連絡が遅くなりました事を紙面をお借りしてお詫び申し上げます。来年こそは開催できることを祈念して、あらためて準備に取り組みたいと思います。(事務局)



世木田江山先生を偲んで

8月11日、突然の訃報に驚きを禁じ得ませんでした。何故なら1週間前、先生が主宰される太陽社の稽古をリモートで行ったと

伺っていたからです。今から思え ば先生流のお別れだったのかもし

れません。第38回産経国際書展では、映えある韓国文化院長賞を 受賞され、これからのご活躍が期待されていたのに残念でなりま せん。生前の先生の情感あふれる人間性と現代書への情熱に深い 敬意を捧げ、お別れの言葉といたします。

先生、どうぞ安らかにお休みください。

常務理事 町山一祥(書研社代表)



最後のリモート授業



新たに「日本書道文化協会」を設立

「日本書道文化協会」の設立総会が8月26日、東京都中央区の東京ステーションホテルで行われました。文化功労者の書家、井茂圭洞氏、黒田賢一氏、髙木聖雨氏の3人が発起人となり、漢字、かな、漢字かな交じり、篆刻の分野で各団体を代表し、おのおのが伝統書法を習得、書を教えてきた日本を代表する書家41人で構成されます。本会は書道文化の普及発展、継承者の育成を目指して活動。書道の無形文化財としての登録認定を円滑に進めるために「保持団体」となります。産経国際書会からは風岡五城理事長(宏道書会)が参加します。

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和3年9月~令和4年1月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
朋邑書道会 5 周年記念作品展 学生展併設	9月23日(木・祝)~9月26日(日)	ふくやま美術館	朋邑書道会	三宅秀紅
第34回研友社展	9月29日(水)~10月4日(月)	銀座かねまつホール	研友社	田中鳳柳
第36回全国臨書摸刻展	10月1日(金)~10月3日(日)	埼玉会館	心芸墨美作家協会	岩浅写心
〈龍峡書道会〉蘭契展	10月12日(火)~17日(日)	鳩居堂画廊 3 F	龍峡書道会	林 龍成
第46回煌心同人書展	10月14日(木)~10月17日(日)	銀座かねまつホール	煌心書道会	松﨑龍翠
第31回書心会書展	10月15日(金)~10月17日(日)	所沢市民文化センター(ミューズ)	書心会	加藤深流
第16回埼玉県書作家連盟展	10月15日(金)~10月17日(日)	埼玉会館	埼玉県書作家連盟	谷 蒼涯
第7回方號書院書画展	10月28日(木)~11月2日(火)	茨木市立ギャラリー	日本書道学士院	久田方琥
第53回一煌会書展	10月29日(金)~10月31日(日)	銀座洋協ホール	一煌会	石川天瓦
書・墨・アートVol.12渡邉麗展	11月2日(火)~12月5日(日)	座·高円寺(杉並芸術会館)	誠心社	渡邉 麗
第31回遊心書道会展	11月5日(金)	紙上展	遊心書道会	大庭清峰
第67回あしで會選抜書作展	11月5日(金)~11月7日(日)	尼崎市総合文化センター	あしで会	今口鷺外
第38回記念CMO展·近畿席書大会	11月6日(土)~11月7日(日)	藤井寺市民総合会館	書融会	正川子葉
第26回秋桜会書展	11月9日(火)~11月14日(日)	銀座大黒屋ギャラリー	秋桜会	鎌田悠紀子
第49回土筆会書道展	11月9日(火)~11月14日(日)	ふくやま美術館	土筆会	上村陽香
第17回日本藝術文化環境書道展	[千葉] 11月12日(金)~11月14日(日) [東京] 12月17日(金)~12月19日(日)	「千葉] さわやかちば県民プラザ [東京] ムーブ町屋	日本藝術文化環境 考solaの会	谷 蒼涯
第38回硯田社書展	11月12日(金)~11月17日(水)	高新画廊	硯田社	橘 黄華
第34回日書美学生公募展	11月13日(土)~11月14日(日)	岸和田市立文化会館	日本書芸美術院	中塚龍華 (事務局)
尚友会2021展	11月18日(木)~11月21日(日)	しずぎんギャラリー	尚友会	小杉修史
第5回[巳歳の会]書展	11月18日(木)~11月21日(日)	東京銀座画廊美術館		今田篤洞 (事務局)
第40回東西書展	11月25日(木)~11月28日(日)	日本橋 好文画廊	東西書芸会	鈴木暁昇
乾翠のこんにったX	11月30日(火)~12月5日(日)	銀座鳩居堂	墨林書道院	遠藤乾翠
第7回海游舎展	12月9日(木)~12月13日(月)	埼玉会館	海游舎	山下海堂
心芸墨美作家協会2021選抜展	12月14日(火)~12月19日(日)	セントラルミュージアム銀座	心芸墨美作家協会	岩浅写心
第12回ボールペン字大賞	12月17日(金)~12月19日(日)	ムーブ町屋	書蒼	谷 蒼涯
第38回雅涎会書展	1月6日(木)~1月11日(火)	有楽町朝日ギャラリー		一色白泉 (事務局)

追悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会でのご活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、 心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

常務理事 世木田 江山(令和3年8月)

編集後記

会報100号をお届け致します。

何もかもが史上初といわれた「東京2020オリンピック・パラリンピック」と同時期開催された産経展、ジュニア書道展が緊急事態宣言下、熱中症アラートのさなか、無事に終えることが出来ましたことに安堵しております。

昨年は選考されなかった高円宮賞に松井玲月先生、内閣総理大臣賞に金丸鬼山先生が 決まりました。誠におめでとうございます。

今回のオリンピック・パラリンピック、不安やプレッシャーの中で夢に向かう選手たちの希望の灯は、世界を勇気づける平和の祭典となったことでしょう。

そして、記録的大雨は九州、中国地方をはじめ北海道にまで、甚大な被害をもたらしました。心よりお見舞い申し上げます。世界的に広がる災害やコロナまん延等先行きが心配です。

今回のアスリートの活躍は、産経展とコラボしたかのように気持ちがひとつに繋がってゆくようでした。こんな時だからこそ感動する心を大切にしたいですね。

(小川艸岑)

(会報編集委員/髙頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邉麻衣子)

表紙:題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行令和3年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

產経新聞社事業本部内

產経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email: shokai@sankei.co.jp

http://sankei-shokai.jp/

https://www.facebook.com/sankeishokai

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等 の変更があった場合には事務局 までご連絡くださいますよう、また、 各会書展のお知らせは早めにお 願い致します。